

盛岡市のシラカバ花粉飛散状況と 当院のシラカバ花粉症患者状況

○須藤守夫、須藤礼子（須藤内科クリニック）

目的

北東北の盛岡市でも花粉症は圧倒的にスギが多く、例年イネ科がこれに次ぎ多い。シラカバ花粉の飛散は両者の間に隠れ、注目されていなかった。2011年に盛岡市でシラカバ花粉症の存在を認め、2011年の本会で報告した。その後、6年経過したため、今回シラカバ花粉飛散状況と外来受診シラカバ花粉症患者について検討したので報告する。

方法

空中飛散花粉の測定はダーラム型花粉採集器を盛岡市民文化ホール屋上に設置しておこなった。標本は毎朝9時に交換し、Carberla液で染色し、花粉数は個/cm²/日で表した。

シラカバ花粉症患者受診状況は2017年5月を中心に、症状、食物アレルギー、RAST検査について検討した。

結果

1) 飛散状況:2017年

スギ+ヒノキ 1996 個（前年 7115 個の 27%と少量飛散）、飛散期間 3/5～5/8 最高飛散日 4/5.

シラカバ 211 個（2015 年 342、2016 年 301）、飛散期間 4/28～6/1, 最高飛散日 5/20

イネ科 196 個 飛散期間 4/21～7/10, 最高飛散日 6/6

以上のごとくシラカバ花粉はスギ・ヒノキ花粉とイネ科花粉の間に飛散していた。

2) シラカバ花粉症患者はシラカバ花粉抗原 RAST2 以上の症例でシラカバ花粉飛散時期と一致して症状があり、シラカバ花粉症と診断した 52 例であった。男 16 例、女 36 例と 1 対 2、平均年齢は男 46.5 才、女 44.1 才であった。

3) 花粉症の合併、抗原陽性はシラカバのみ 1 例、シラカバ+スギ・ヒノキ 9 例、シラカバ+イネ 2 例、シラカバ+スギ・ヒノキ+イネ 40 例と重複例が多かった。さらにヨモギ・ブタクサの合併は 32 例と多かったが、飛散時期が異なるため省略した。

4) シラカバ花粉症 52 例の食物アレルギーは 28 例(54%)、男 5 例(31%)、女 23 例(64%)と女の方が多かった。バラ科アレルギーは 24 例(46%)、男 4 例(25%)、女 20 例(56%)であった。その他、ウリ科は 16 例(32%)、パイナップル科 8%、ナス科 6%などであった。バラ科の頻度はモモ 19、リンゴ 18、サクランボ 10、ナシ 4、イチゴ 3、その他 3 例の順であった。

5) ハンノキ花粉の飛散数は 2017 年 154 個 飛散期間 3/1～4/25、最高飛散日 3/20 とシラカバ花粉飛散期間とは重複しなかった。

考察

シラカバ花粉症はスギ・ヒノキ、イネ科花粉症と重複例が多く、スギ・ヒノキ、イネ科花粉症に包括されていた可能性がある。しかし、食物アレルギー特に、果物アレルギーの合併が多く、ほとんどがバラ科アレルギーで、モモ、リンゴ、サクランボ、ナシの順であった。この点からもシラカバ花粉症の存在が裏付けられた。

盛岡ではシラカバ花粉の飛散はイネ科とほぼ同数飛散しており、シラカバ花粉症について検討し、一般に周知する必要がある。